

「自民党は4月の消費増税をまったく反省していないんですか？」

平成27年1月6日

●田中はんぞうさんからの質問

西田先生、総選挙お疲れ様でした。その選挙の特番で自民党の方が4月の消費増税は失敗ではなかった、反省はしていない、という旨をおっしゃっていました。自民党の方はこういう認識の方が多いのでしょうか。このような認識だからこの景気後退局面で補正予算がたったの三兆円という話になるのではないのでしょうか。自民党に投票した身としては残念でなりません。この道しかないのでしょうか。西田先生のお考えをお伺いしたいです。

●西田昌司の答え

「超人大陸」というインターネット TV に、私の友人である京都大学大学院教授の藤井聡先生が先日、久しぶりに出演されました（「アベノミクス 2.0 PB 目標の再考と共に」<https://www.youtube.com/watch?v=dekVEn-JAxE>）。この動画で藤井先生は「PB（プライマリー・バランス）目標は、債務対 GDP 比（名目）を悪化させている」と主張しておられますが、最近の安倍総理は藤井先生の話非常によく理解されており、経済財政諮問会議のような場で「プライマリー・バランス黒字化を目標にするのではなく、政府の負債対名目 GDP 比率の引き下げを目標にすべき」といった発言をされています。

プライマリー・バランスとは、「過去の債務に関わる元利払い以外の支出と、公債発行などを除いた収入との収支」のことであり、政府に「入るお金」が「出るお金」よりも多ければ黒字となります。プライマリー・バランスを黒字化しようとする「増税」あるいは「政府の支出削減」といった手段に訴えがちですが、デフレ下でそのような手段によってプライマリー・ balan

スの黒字化を達成しようとする必要を減らしてデフレがますます進行する事態に陥ってしまいます。プライマリー・バランスの黒字化は大事なことでありますが、短期的な視点でプライマリー・バランスの黒字化を目指すと税収が減ってしまい、ますますプライマリー・バランスが悪化するのです。

そうではなく、安倍総理がお気付きになったように経済を成長させることで税収を増やしてプライマリー・バランスを黒字化の方向に持っていくべきであり、その為にはプライマリー・バランスではなく「政府の負債対名目 GDP 比率」を指標とし、この比率を引き下げることが目標とすべきなのです。建設国債を発行すると分子の「政府の負債」は増えますが、一方で分母の「名目 GDP」が（乗数効果により）それ以上に増えて「政府の負債対名目 GDP 比率」が下がり、税収が増えることで結果的にプライマリー・バランスも黒字化の方向に進みます。

日本が 20 年近くに渡りデフレから脱却できなかったのは、短期のプライマリー・バランスの黒字化を目標として「政府の支出削減」をやり続けたからですが、これは財政均衡主義を掲げる財務省の影響が非常に大きいわけです。安倍総理は今回、解散総選挙に打って出て消費増税の延期を決断し、何としてでも消費増税をしたい財務省に No を突き付ける英断を下されました。

毎年、社会保障費が 1 兆円以上増加しており、2025 年には 150 兆円近くになる予測があります。国民負担率を上げない限り財政が破綻し、国民生活を守ることができませんが、現在のデフレ下では増税をしてはなりませんし、増税の前に経済をデフレからインフレに戻さなければなりません。昨年 12 月の 3 兆円の補正予算は確かに少ない規模でしたが、本年度の補正予算ではもっとしっかりとした対策をせねばなりません。昨年の 12 月 26 日の政務調査会で私は 2 時間に渡る議論をして積極的な財政出動を訴えましたが、今の党内の議論を見て私は「今年の安倍内閣は積極財政へ舵を切る」と確信していますので、是非ご期待ください。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>